

【目的】 視覚に障害を持った女性に対する性被害の実態を把握し、社会に伝える。

【調査方法】 WEB アンケートを作成し JBB の WEB サイトや JBB の会員などに向け SNS およびメールマガジンで告知を行った。

【調査内容作成】 アンケート項目は、JBB の晴眼者のスタッフが実態調査という目的に沿って作成したものを、JBB の視覚障がい者スタッフの要請に基づいて数回にわたる協議、試行の後に決定した。

【調査内容】 アンケート項目は、性別、出来事の内容を尋ね、どこで起きた出来事か、継続的な被害であったか否か、加害者との関係、被害時の自分の状態、被害時の加害者の言動、被害認識、相談行動、社会に要望したいことについて尋ねた。

【調査期間】 2021年11月16日から2021年11月30日まで

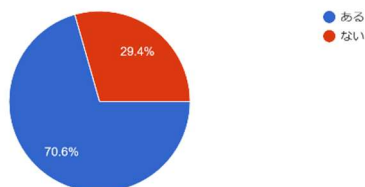
【対象者】 年齢を問わず、性被害を受けたことがある視覚障がい者女性。

【倫理事項】 説明文にて性被害経験について問うアンケート項目であることを明記し、個人が特定される情報は尋ねないこと、回答は任意であること、回答を途中でやめても不利益がないことなどを明記の上、結果を公表することなどを記載した。

【分析】 データの分析は JBB のスタッフが行った。

【回答者数】 総回答数は 69 件（約 300 名に発信）。

①視覚障害に乗じたと考えられる状況で、性的な嫌...と回答した方は、問い10へお進みください。
68 件の回答

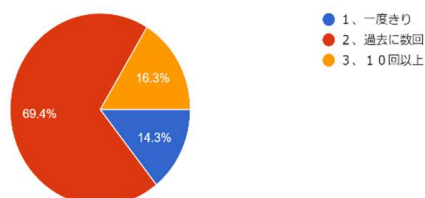


①視覚障害に乗じたと考えられる状況で、性的な嫌がらせを受けたり、性的に不快な思いをしたりするなど性的な被害に遭われたことはありますか。

ある⇒70.6%

ない⇒29.4%

②性的な嫌がらせや、性的に不快な思いをした経験...。複数回あった場合は、頻度を教えてください。
49 件の回答



②性的な嫌がらせや、性的に不快な思いをした経験は、一度でしたか。それとも、これまで複数回ありましたか。複数回あった場合は、頻度を教えてください。

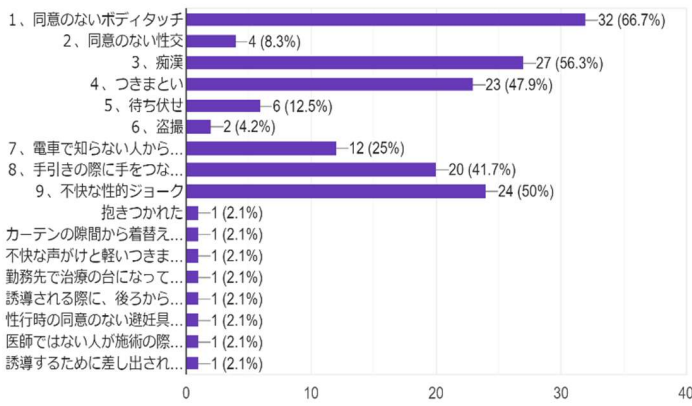
一度きり⇒14.3%

過去に数回⇒69.4%

10回以上⇒16.3%

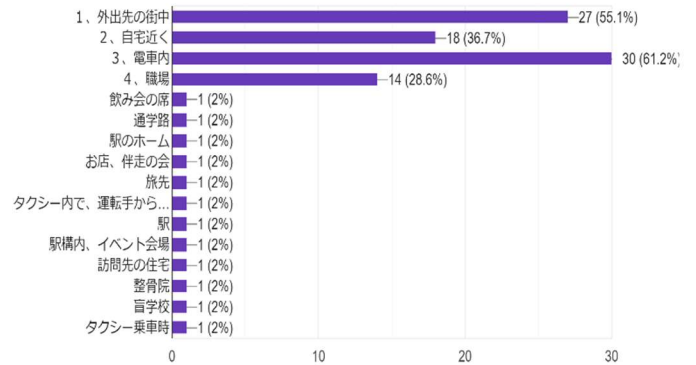
③それは、どのような被害でしたか。(複数回答可)

48 件の回答



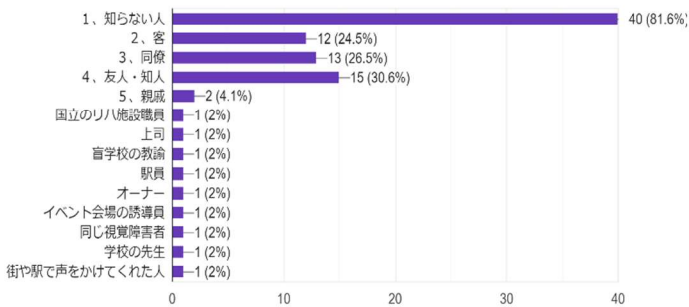
④どこで被害に遭われましたか(複数回答可)

49 件の回答



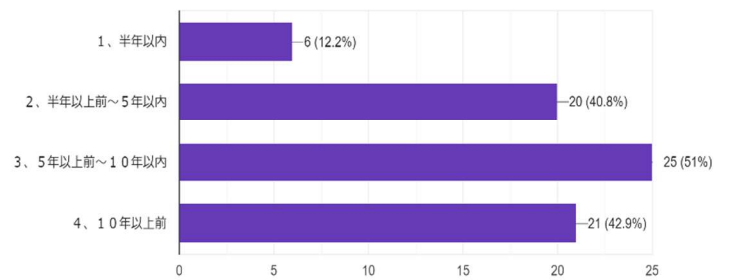
⑤加害者との関係性を教えてください(複数回答可)

49 件の回答



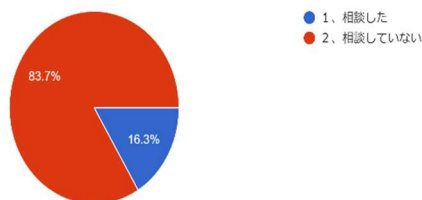
⑥いつごろ被害に遭われましたか。(複数回答可)

49 件の回答



⑦被害に遭った後、家族や知人・友人以外で、警察...の公的機関や民間の相談窓口にご相談されましたか

49 件の回答



⑦被害に遭った後、家族や知人・友人以外で、警察などの公的機関や民間の相談窓口にご相談されましたか
相談した⇒16.3%

相談していない⇒83.7%

⑧<問い7で「相談した」と答えた方へ>相談した際、目が不自由なことによって困難だと感じたことがあれば教えてください。(例：目が見えないため、被害当時の状況や加害者の容姿を説明できなかった)

【主な回答】

- ・加害者の容姿がわからず説明が難しかった。
 - ・相手の容姿が見えなかったから説明出来なかった。“警察に伝えたが”視覚障害＝めが見えないこと自体が理解できないようだった。
 - ・直後に交番に被害届を出したが、警察官から「目が見えないんだからおとなしく家にいなさい。外出するんじゃない。」と逆に注意されてしまったことがショックだった。
 - ・悪意の有無が判断できない場合がある
- など7件の回答があった。

⑨<問い7で、「相談しなかった」と答えた方へ>相談されなかったのは、どうしてでしょうか（自由記述）

【主な回答】

- ・誰に相談してよいかわからなかった。
 - ・転職の大変さを経験していたので、我慢した。
 - ・見えないのでその人の特徴などを聞かれても答えられないと思ったから。
 - ・健全者と一緒に歩くように言われ、一人で外出することがいけないと言われるといやだなと思った。
 - ・相手に悪意があったわけではなさそうだったから(単にガイドヘルプの正しい方法を知らなかったり、親切心で声をかけているような様子だったから)。不快に感じはしたが被害というには些細なことだったから。
 - ・相談先がわからないし、どうせ障害者の話は聞いてもらえないことがわかっているから。
- など 37 件の回答があった。

⑩視覚に障害を持つ女性が、性的な被害に遭いやすいという実態があります。そういった実態について、感じられること、社会に要望したいことなどご意見があればお伺いしたいです。

【主な回答】

- ・説明や代筆を依頼するときなど、高齢者に伝えるときのように不必要にゆっくり大きな声で話す方がいるが、ただでさえ会話することによってプライバシーが漏れやすいので、個人情報に配慮して他の方には聞こえないように話してほしい。
- ・匿名で相談できる障害者専用の相談先があったらこんなにやりきれない思いをせずすんだと思います。
- ・親切に誘導してくれても過度なボディータッチなのかがわかり難いし、決め事を作っても万人に共有できなければ、その場においても助言の声をあげられないと思います。(一部抜粋)
- ・駅での案内の際のアナウンスはやめてほしい。もっと正しい手引きの仕方を知って欲しい。
- ・「犯罪」と、手引きの仕方を知らずに手を握ってしまったりすることを同じように扱って欲しくありません。視覚障害に限らず、困っている人を見かけたから手を差し伸べようという、本来、人が持っている自然な行動が、「正しい援助方法かどうか不安だから声をかけないでおこう」となってしまわないか心配です。(一部抜粋)
- ・視覚障害者に対する声かけやガイドヘルプを健全者の方に伝える際には、単に方法だけではなく、適度な距離感やマナーを守ることも教える必要があると思う。(一部抜粋)
- ・ドライブレコーダーのようなものが必要。など 68 件の回答があった。

アンケート結果を受けて JBB より

今回のような一斉アンケートは、弊社としては初めての試みでしたが、69名もの視覚障がい者女性が声を上げて下さり、多くの貴重なご意見を頂戴することができました。70%以上の視覚障がい者女性が、性被害にあったことがあると回答いただきましたが、特に被害にあっても視覚障がいがあるために相手の特徴が確認できず、相談を思いとどまってしまう、障がい者が相談できる場所が少ない、白杖が障害の目印になってしまうなど、その中でも本来視覚障がい者にとって必要なサポートであるはずの誘導行為が、誘導する側に正しい知識がないために犯罪かどうかの判断をしにくくしてしまっているということがわかりました。また今回ご回答いただけなかった多くの視覚障がい者女性の無言の声があることも真摯に受け止め、社会全体で取り組んでいかなければならないと強く感じました。今回いただいたすべてのご意見ご要望に基づき、JBB では全国の公共機関、企業、サービスを提供する全ての方に向けた視覚障がい者に対する正しい誘導方法、おもてなしやマナーがわかるハンドブックの作成に活用させていただきます。アンケートにご協力をいただいたすべての方に、JBB 頼んで良かったと実感していただけるよう、スタッフ一丸となって取り組んでまいりますので、今後ともよろしくご意見申し上げます。